

【チーム「Fujiyama」 シニアA スタンダード】

レポート担当 西方 達哉

•出場選手（メンバー構成）計24名（内マネージャー1名）

チーム「うみひ」計7名

伊藤 裕樹・飯野由美子（鼓手）・栗田 将仁・浅野 千明（鼓手）・野崎 直文

酒井 幹彦（舵） ※大滝 まゆり（マネージャー）

チーム「龍人」計2名

内藤 正治・横江 隆之

チーム「BON OYAGE」計15名

神谷 志郎・内山 孝重・山本 剛・山口 宏・池川 忠行・鎌田 嘉文・坂本 直之

西方 達哉・尾木 英治・中井 康児・藤原 一夫・リム チュウカイ・平田 護

小西 信介・白柳 晴康 ※何れも順不同

•戦績

① 2000m（現地 7/15）

•8 チーム中6位（2 チーム棄権）：自艇タイム 10：17.597

（上位5チームのタイム）

Canada 9：2.228

United States 8：43.526

Czech Republic 9：00.618

Hong Kong China 9：32.033

Singapore 9：41.849

2000mレースコメント

今大会での初日レースとあって、メンバーに硬さが見られた。

そんな中でも、コーナーで果敢にインを取りに行くなど戦意を前面に出したレースが出来、チームが一丸となった。

但し、コーナーでの優先指示が聞こえなかったとは言え、進路妨害と言う裁定になりペナルティとして5秒の追加タイムをもらう事となってしまい反省点とした。

2000mのレースタイムとしては世界との差を痛感させられるものとなった。

② 1000m（7/16）

•予選：5 チーム中5位：タイム 4：34.131

•敗者復活：5 チーム中5位：タイム 4：30.737

（上位5チームのタイム）

United States 4：01.154

Canada 4 : 01.425

Germany 4 : 02.184

Czech Republic 4 : 02.738

Poland 4 : 04.569

1000mレースコメント

1000mは前回出場したカナダ大会でも差がついたカテゴリーであったが、今回も Top チームとのタイムは 2000m と共に大きな差があり厳しい結果となった。レース展開としてはスタートも良く、序盤から中盤にかけてはついて行けたのは、大会へ向けた練習の成果と感じたが、中盤終わりから終盤にかけては、地力の差が出て離されてしまった。世界で戦うには、この終盤が課題と言う事が分かったのは一つの収穫と思う。

③ 200m (7/17)

- 予選 1 レース目 : 6 チーム中 4 位 : タイム 51.943
- 予選 2 レース目 : 6 チーム中 4 位 : タイム 52.253
- 予選 3 レース目 : 6 チーム中 4 位 : タイム 52.039

(上位チームのタイム)

United States 46.421→46.816→46.110

Canada 46.381→46.984→46.365

Poland 49.007→49.338→50.609

レーコメント

200mは短い距離とあって、我々の得意なスタートを活かせるカテゴリーでもあった。予想通り、自重の軽さもありスタートに関して満足の行く展開であったが、上位チームはスタートのピッチを保ったまま巡行に移っていた為、中盤から離されてしまった。3位のポーランドと何とか勝負に持ち込みたかったが、最終レースも 1.7 秒の差が詰められず惜敗となった。瞬発力を活かしたスタートは練習の成果であった。

④ 500m (7/19)

- 予選 1 レース目 : 8 チーム中 6 位 (うち 2 チーム棄権) : タイム 2 : 11.019
- 予選 2 レース目 : 8 チーム中 6 位 (うち 2 チーム棄権) : タイム 2 : 14.086
- 予選 3 レース目 : 8 チーム中 5 位 (うち 2 チーム棄権) : タイム 2 : 09.533

(上位チームのタイム)

Canada	1 : 58.685→1 : 58.801→1 : 56.884
United States	1 : 55.490→1 : 59.255→1 : 58.110
Germany	1 : 59.338→1 : 59.032→1 : 58.483
Hong Kong	2 : 04.749→2 : 06.956→2 : 05.837

今大会で一番の手応えを感じたカテゴリーであった。

スタートについて行き、中盤までいい手応えであった。今回の課題として浮かび上がった中盤以降の差がここでも見られ、4位の香港、5位のシンガポールに1・2レースともに最後に離されてしまった。

しかしながら、我々の今大会最終レースであった3レース目は、終盤も落ちることなくシンガポールに一矢報いた事は大きな自信になった。

⑤ 今回を振り返って（総括）

初めに、今回の大会前及び大会中にご尽力いただきました協会関係者の皆様、そしてサポートの皆様、他チームの皆様に感謝を申し上げます。

大会の結果は決して満足できるものではありませんでしたが、スタートから巡行まで長くしっかりしたストロークを目指した練習の成果は全てのカテゴリーで出せたのではないかと思います。

そして、世界の漕ぎのメソッドや世界標準の体格・パワーなどを目の当たりにして、改めて自分たちの足りない部分を認識できたことも大きな成果であったと感じています。

ただ一つ残念でしたのは、今回、日本代表として世界大会行きの話があったのが、今年の2月の下旬でありました。それから短時間でチームとして戦う体制を組んだ状況でした。

その後3回の合宿を組み、各チームでの練習メニューの統一など、時間がない中でも充実した練習が出来たのではと感じていますが、昨年10月の海の森での代表選考の後、話を頂いた2月まで約4カ月間も空白の時間があった訳です。もし、早々に代表の打診を頂いていれば、今回準備した練習期間の倍の時間があったと考え、もっと万全の準備が出来たのではないかと惜しまれます。

また、今回私たちチーム Fujiyama は、本来の規定通り国内予選からドイツの世界大会まで同じメンバーで戦う事が出来た事によりチームに一体感が出来たと自負しております。今後、次点のチームに譲る時期の明確化や国際大会出場のための ToDo リスト的なものを JDBA から HP で事前に示していただければ JDBA 担当と派遣チームが共通認識の下、事務作業も円滑に行えるのではないかと感じましたので、ご検討の程、宜しくお願い致します。

最後に今回ほとんどのメンバーが久々もしくは初の国際大会であり、慣れないヨーロッパという英語圏以外の地で、一人の怪我人もなく無事に大会を終えられた事は皆様のサポートのお陰と重ねて感謝申し上げます、今回の大会総括とさせていただきます。 以上